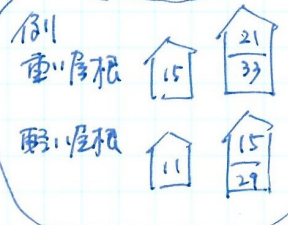


木質構造

必要壁量

改修
床面積 × 表2

風圧力
床から13.5m以上の具材面積
×
表3の数値
(50)



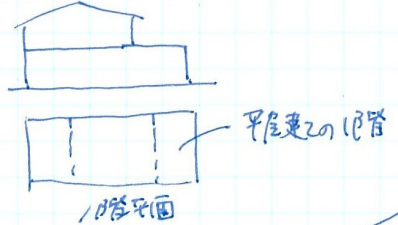
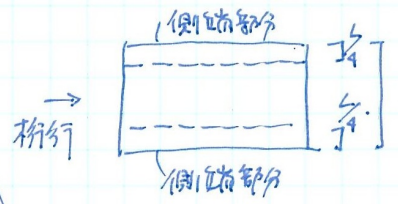
壁割法

側端部分 (両端から1/4の部分)

壁量充足率 = $\frac{\text{存在壁量} = \text{壁工倍率}}{\text{必要壁量} = \text{床面積} \times \text{表2}}$

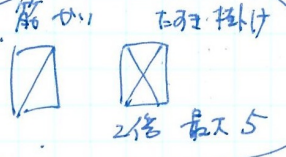
壁率比 = $\frac{\text{小さい方}}{\text{大きい方}} \geq 0.5$ 正確め

もしは
壁量充足率が
1.0以上なら
偏心率0.3以下



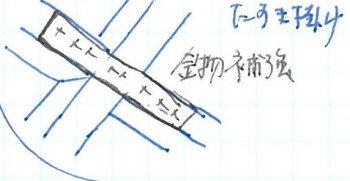
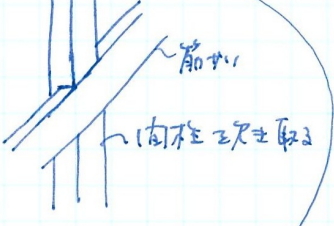
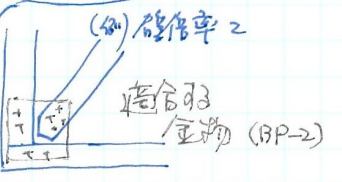
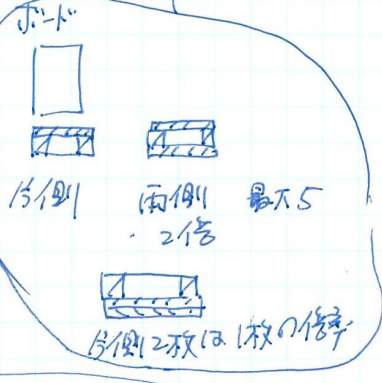
存在壁量

壁長 × 壁倍率 (表1)

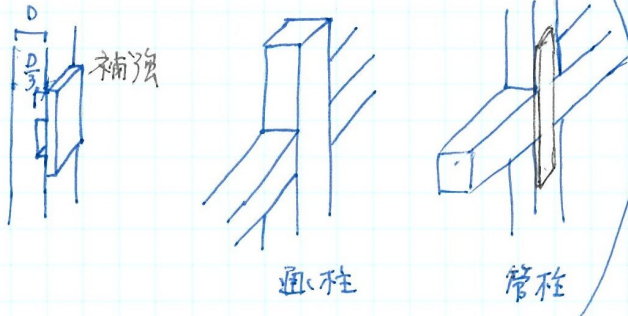


壁倍率

15mm × 90mm 313号筋か	1.5
30mm × 90mm 313号+圧縮筋か	1.5
45 × 90 313号+圧縮	2
90 × 90 31号E	3



柱の小径
3階建の1階 13.5cm以上



耐震性向上の方法

- 効果あり
 - 基礎に鉄筋コンクリートの布基礎にする
 - 2階床の補強
 - 屋根の軽量化
- 効果なし
 - 1階床の補強